



南側商業施設：橋詰広場から眺める

商業施設のイメージ



代官山 T-SITE



代官山 T-SITE



ヒルサイドテラス G棟



京王線新宿駅

サイン計画の方針

1. 行政と議会、低層部の市民に開かれたスペースやそこでの活動こそがシンボルとの位置づけに応じて、建築デザインや周辺環境との調和を考慮した品位ある美しいサインをデザインします。
2. 「横浜市公共サインガイドライン」を基本としながら、本施設の特徴や建築的個性、及び市庁舎としての使い勝手を考慮した、市庁舎独自のサインをデザインします。
3. 市民に長く愛され、国際都市よこはまにふさわしい、誰にでもわかりやすい表現を心がけます。代表的なサインは必要に応じ4か国語対応として、文字だけでなくピクトグラムでの表記も併用します。また、視覚障がい者への対応など、バリアフリーに配慮し、誰にでも使い勝手の良いサインをデザインします。

横浜らしさの表現(デザインコード)

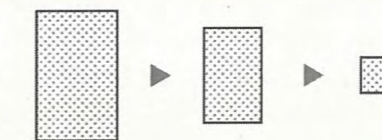
開港の街である横浜の国際性や歴史性をふまえ、地域にふさわしく伝統と進取の気性を兼ね備えたサインをデザインします。建築のデザインで表現されているシルクのような質感の品位ある市庁舎というイメージを踏襲し、庁舎が建つ北仲通り南地区の場所性と周辺環境を考慮します。例えば、市庁舎の基調色となっている「白系」を用いて、全体で統一感を高めていきます。



①配置計画

動線計画に則し、適切な箇所に必要なサインを配置します。導入部、空間の分岐点に案内板及び誘導表示を設けます。入口から目的地までつながりをもったサインを計画します。

案内サイン 誘導サイン 定点サイン



②耐候性と安全性

特に屋外サインについては、耐候性に十分な配慮をし、潮風などの塩害を考慮した素材を選択します。また、落下や破損のないように設計します。内部の可動式サインでは簡単に倒れない設計とします。



③視認性に留意したわかりやすいサイン

遠くから認識できることが必要な誘導サインや、インフォメーション、トイレ案内などは、文字とピクトグラムの大きさや、表示板と文字の明度差に留意して、視認性のよいサインを設計します。

④フレキシブルな表示システム

例えば、行政エリアでは各部局が移動した際にフレキシブルに表示が変えられる表記システムを採用します。インクジェット出力シートや粘着シートの利点を活用し、適宜内容の変化に対応できるように計画します。



⑤デジタルサイネージ(別途工事)との調整

変わらない施設系の情報(サイン)と、変わる催し系の情報(デジタルサイネージ)は、同じ空間に存在するので、個別に考えず、配置の検討やフェイスデザイン、色彩の統一など調整を図ります。

⑥商業系サイン

低層部の店舗のサインは、利用者目線に立って、店舗一覧など一目で施設がわかる案内板を設置します。各店舗入り口の店名サインの本体はすべて統一したスタイルとし、秩序と賑わいのバランスのとれたあり方を考えます。

⑦歴史性

調査により出土した遺構の説明表示と、この地区の歴史について記録するサインを計画します。



■低層部サイン

低層部のサインは、機能が混在する“街のようなパブリックスペース”という考えを尊重し、外構サインと内部サインは統一感と連続性のあるデザインとします。また各広場や展示スペースでの市民活動の場の妨げにならないように配置します。

■行政エリアサイン

統一性のあるデザイン・配置計画で、目的地まで円滑に誘導します。

■議会エリアサイン

空間との調和を考慮した品位あるサインをデザインします。

■交通サイン

横浜を代表する各エリアを結ぶ場所に位置し、まちの結節点としての市庁舎は、馬車道駅に直結しているところから、駅への接続口であることがはっきり認識できるようなサインを設け、来庁者の利便性を高めます。

(※街の案内誘導サインと関係するサインは今後調整)

大きな屋外広告物は想定していませんが、水際線プロムナードに面する商業施設の屋外広告物は、建築デザインと一体的な質の高いものとし、パブリックスペースにふさわしい景観に調和したものとします。

A. 館名サイン

- ・車寄せから見える位置に配置 ●
- ・二元代表制を示す

- ・各エントランスに壁面表示 ○

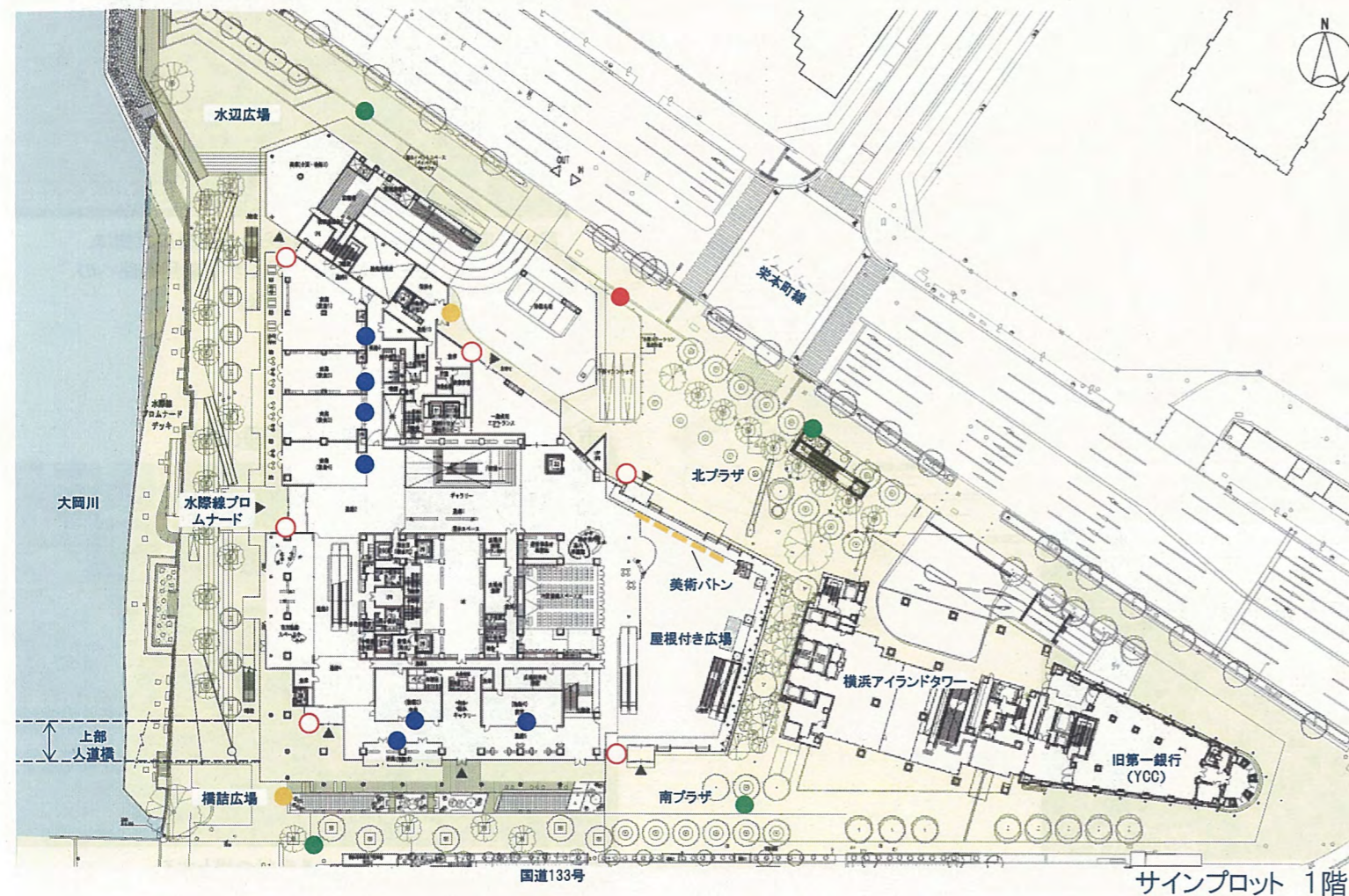


B. 施設総合案内 ●

- ・各広場やプラザに配置
- ・周辺や市庁舎全体の構成を示す

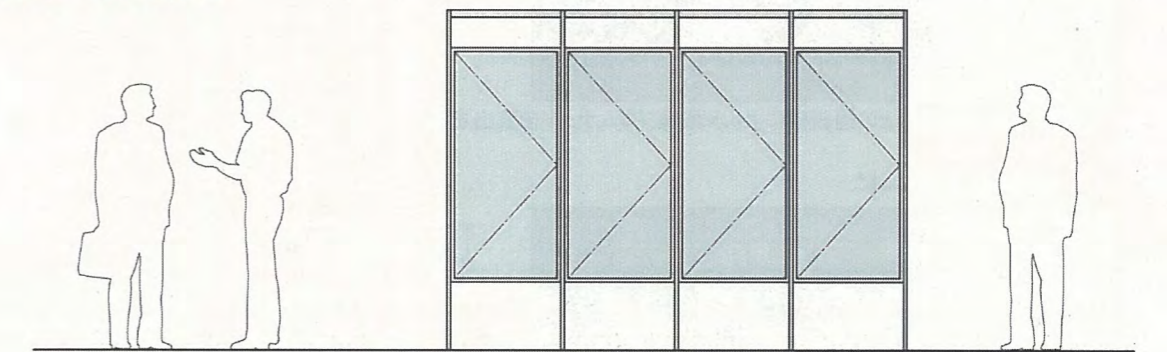


(※街の案内誘導サインと関係するサインは今後調整予定)



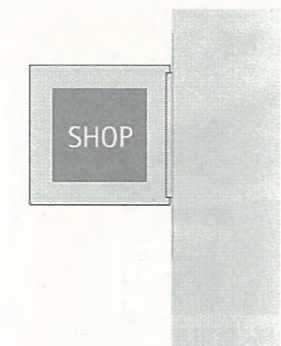
C. 外部掲示板 ●

- ・主要な出入口付近に配置
- ・来庁者へ情報発信



D. 店名サイン ●

- ・店舗出入口付近に突出配置
- ・主に室内側廊下に設置
- ・屋外サインは商業検討の中で貸方基準を設けていく予定



大岡川沿いに面した市庁舎エリア側は、四季の変化を楽しむことができる落葉樹を中心とした「多様な緑」が展開する植栽計画とする。屋根付広場の周囲は、横浜アイランドタワー周りの既存常緑樹と合わせて包み込むように配置し、防風効果を持たせながら広場の活動を包み込む「都市的な緑」のボリュームを計画する。開港の地として西洋の園芸文化の玄関口となった歴史や、郊外部に残る豊かな里山景観など「横浜らしさ」を感じさせる植栽とする。さらに、育成管理等に市民が参加できる余地をつくり、横浜の植物についての理解を深める場としても機能するよう計画する。

・水辺広場



D. 水際線プロムナード



C. 緑のカスケード



・橋詰広場



B. グリーンファニチャー



A. 北プラザ、南プラザ、歩行者用通路



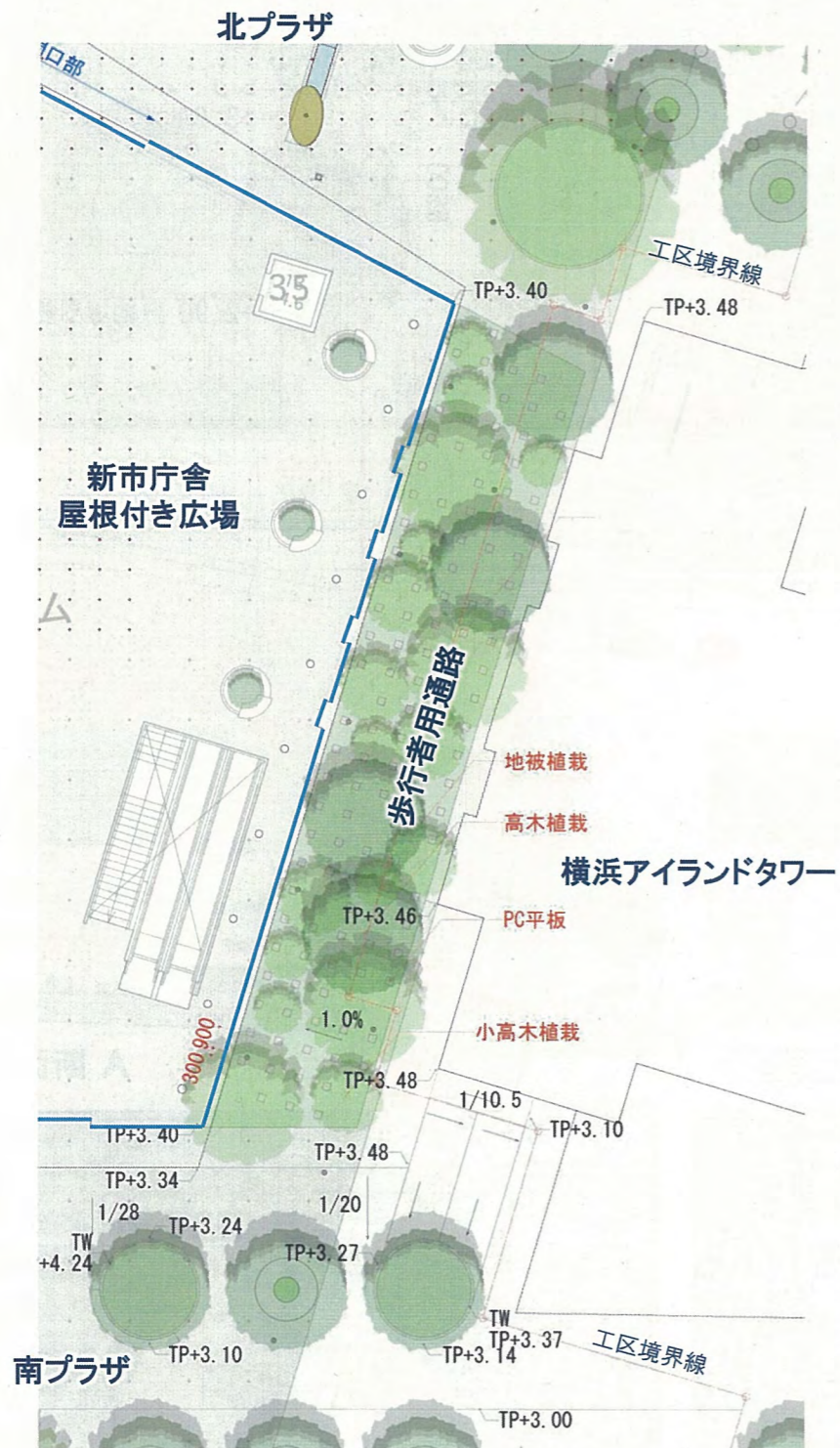
屋根付広場を取り囲むように植えられた常緑広葉樹は、都市の活動を見守る緑となる。また、歩行者用通路への防風効果を持たせた植栽計画とする。

・市民参加による緑の育成・管理の場





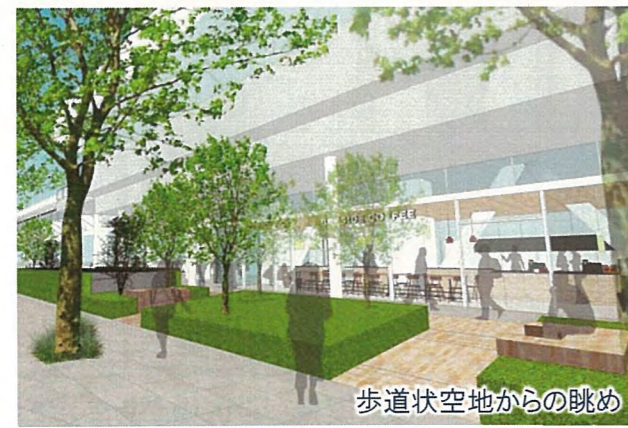
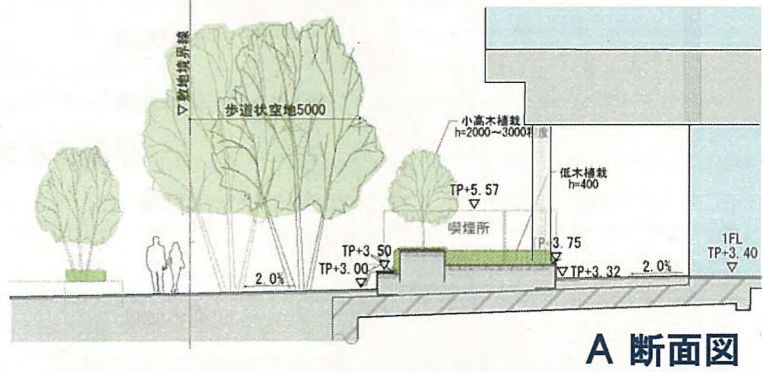
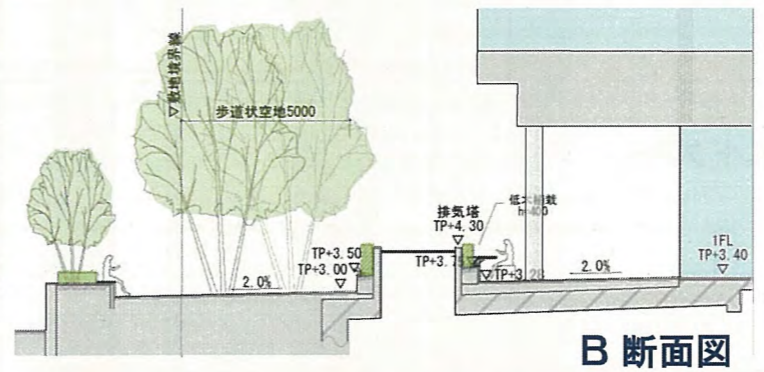
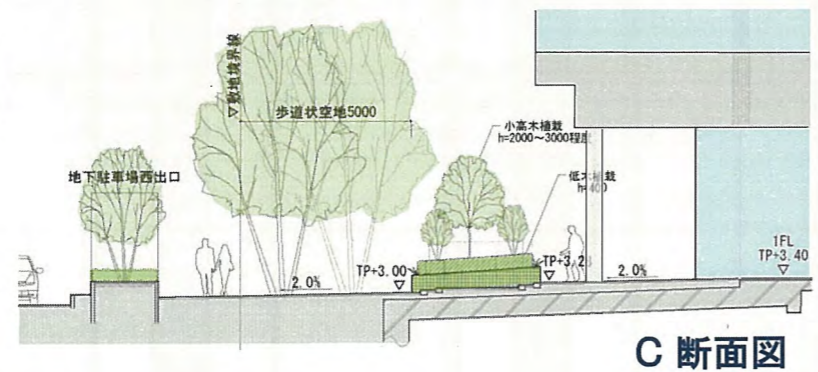
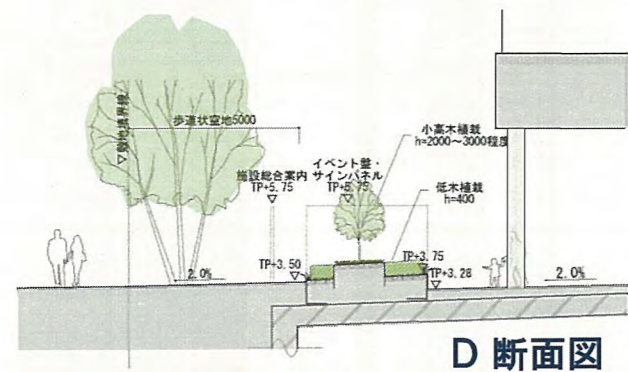
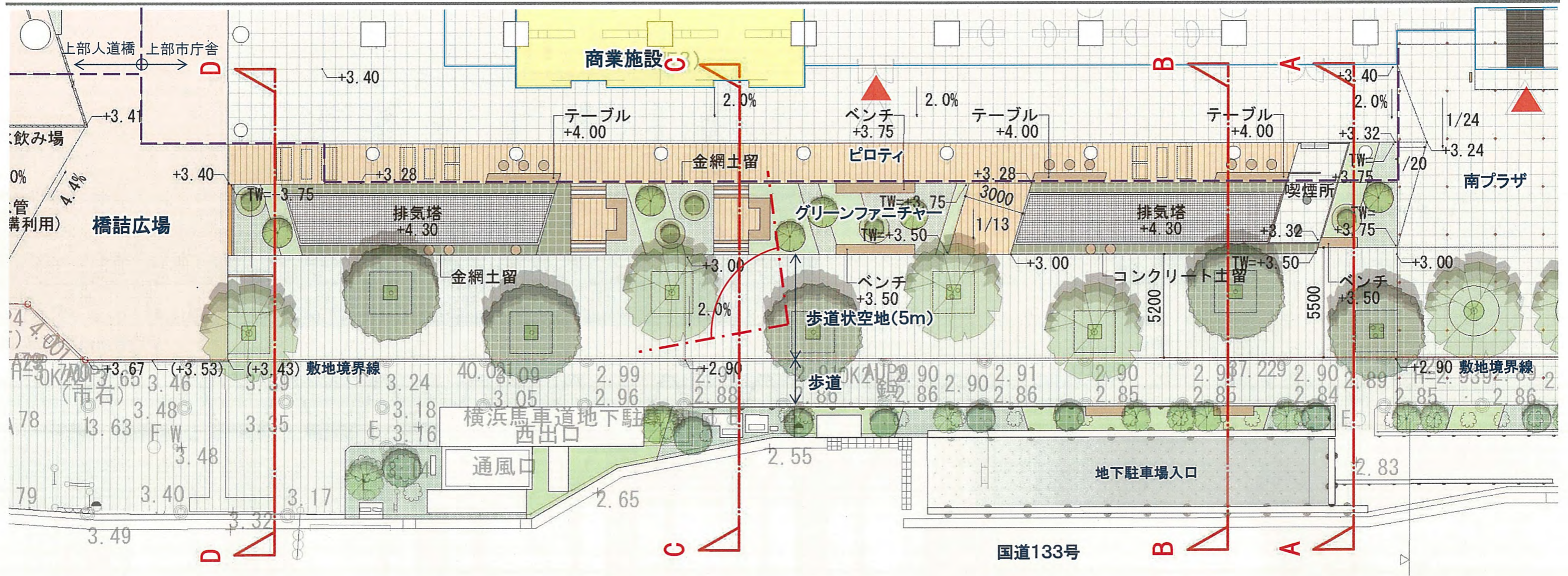
歩行者用通路 立面図



歩行者用通路平面図



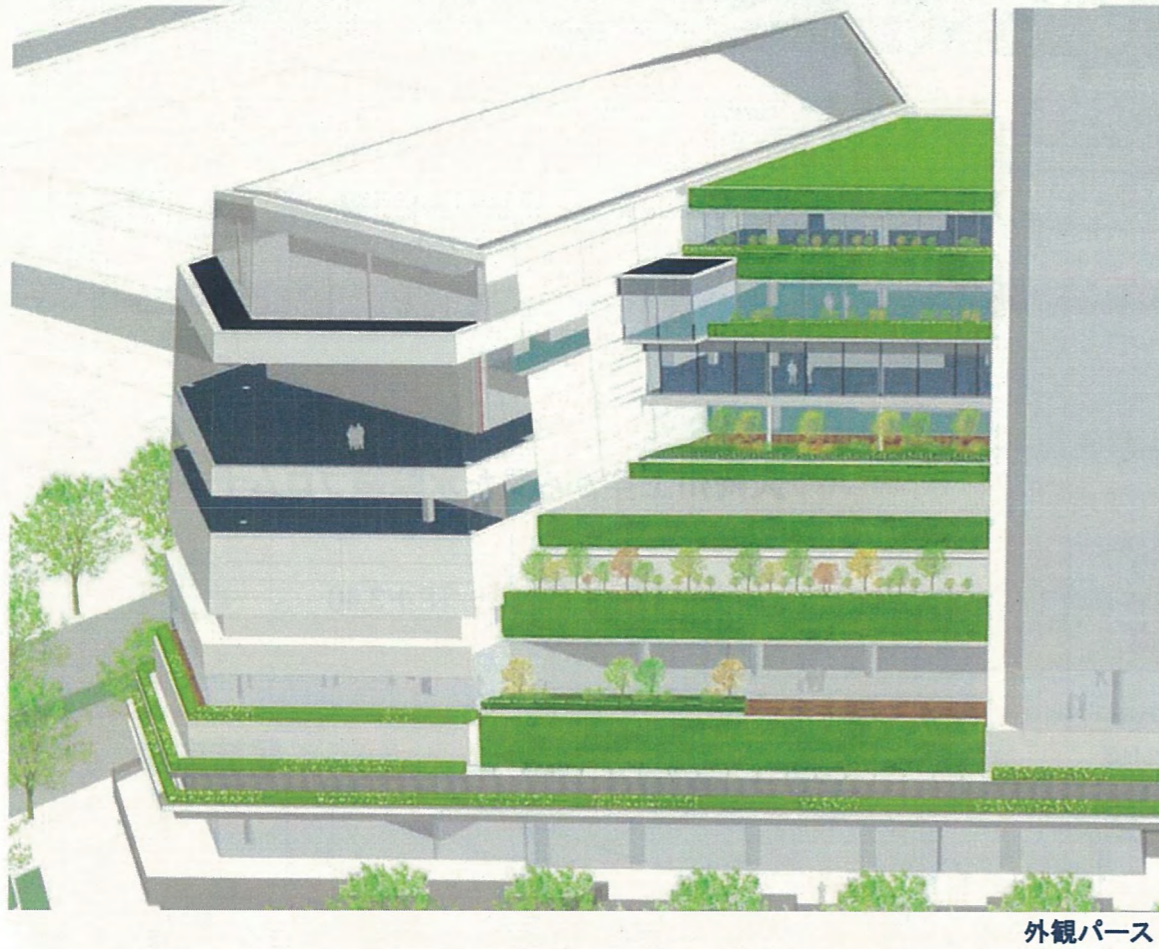
屋根付き広場からの眺め



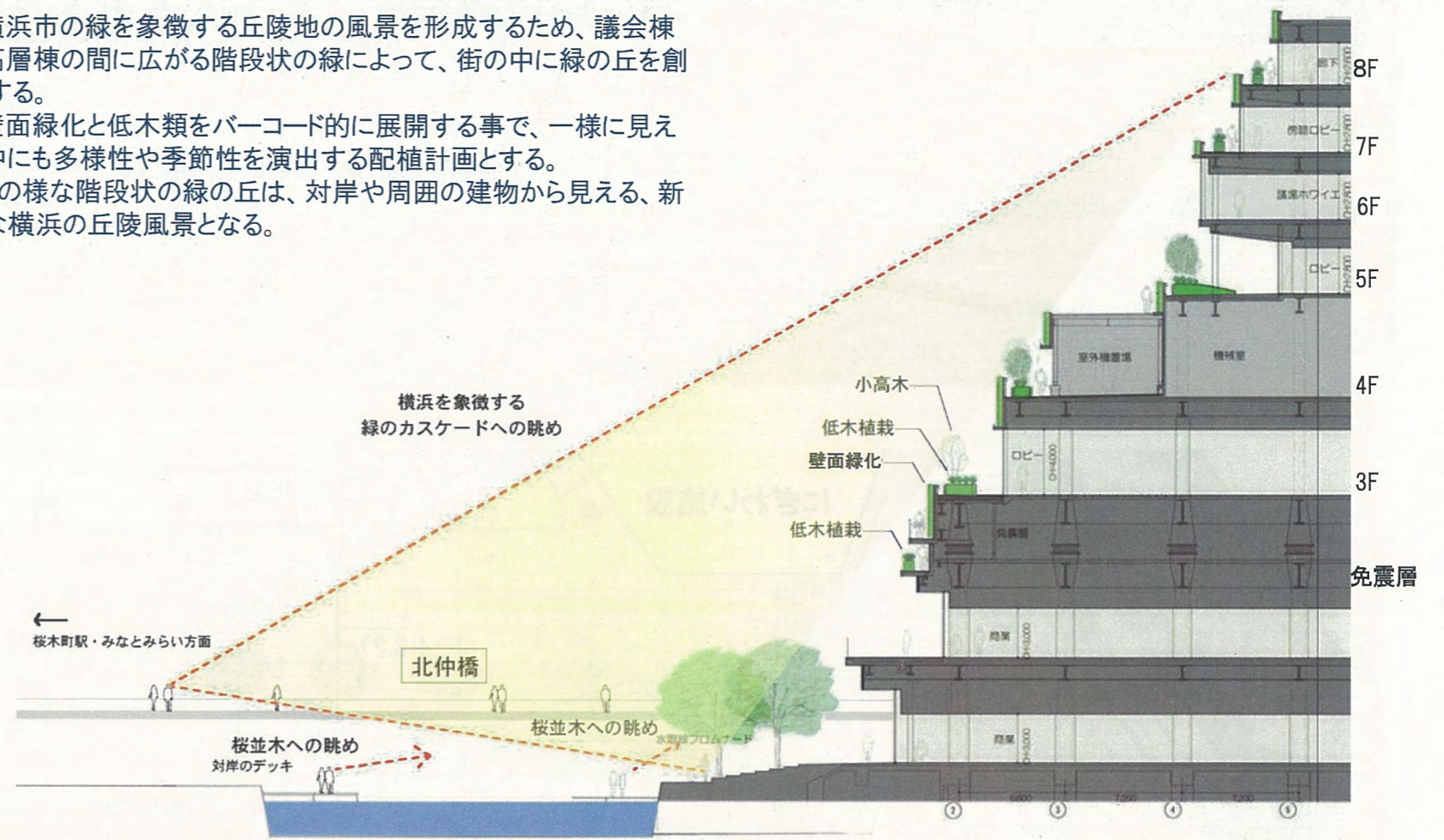
緑と家具が一体になったグリーンファニチャーで、活動的な緑の場を創出する



<外からの見え方> 街の中に緑の丘陵風景を形成する



横浜市の緑を象徴する丘陵地の風景を形成するため、議会棟と高層棟の間に広がる階段状の緑によって、街の中に緑の丘を創出する。
 壁面緑化と低木類をバーコード的に展開する事で、一様に見える中にも多様性や季節性を演出する配植計画とする。
 この様な階段状の緑の丘は、対岸や周囲の建物から見える、新たな横浜の丘陵風景となる。



<内からの見え方> 都市風景とともに横浜の緑をみせる



ガラス越しに見る横浜の緑と都市風景のイメージ

大岡川の流域に自生する植物で構成した緑と、背後の横浜の都市風景を借景として取り込むことで、横浜ならではの緑と都市風景を展示する「都市のニワ」を設える。

